

鳥取県知事
平井伸治様

鳥取県への提言

平成28年11月14日
とっとり創生若者円卓会議

はじめに

私たちとっとり創生若者円卓会議のメンバーは、今年度、鳥取4回、東京1回の計5回の会議を開催し、この会議の意見交換を通して、今住んでいるこの鳥取県が将来にわたって元気であり続け、安全・安心に暮らし続けるためには、私たちが自ら動き、鳥取県の魅力を発信していくことが大切であるということに気づきました。

人口減少が続く鳥取県の現状において、都会へ進学等した学生（若者）を何とか鳥取県に戻すことができないか、また、鳥取に来ている学生（若者）をそのまま鳥取県に踏みとどまらせ定住させることができないかといった『若者の移住・定住促進策』を中心に意見をまとめるとともに、出されたアイデアの中から、具体的な施策案についても提案します。

私たちの提案が、少しでも鳥取県の活力ある未来へつながる一助となることを願います。

末筆ながら、このたびの鳥取県中部を震源とする地震では、家屋の倒壊や農作物の被害など多大な被害が生じました。しかしながら、これほどの被害が生じながらも命を落とした方がいなかったのは、災害に強い人づくり、体制づくり、地域づくりに向けた施策を日頃から展開してこられた成果であり、このことは鳥取県の大きな強みであると考えます。

1 若者のふるさとリターン（回帰）・定住促進について

県外に出た本県出身の若者が鳥取県に戻りたいという希望を叶え、併せて、県外から来ている若者に本県に定住してもらうため提言いたします。

〔提言の要旨〕

移住・定住を促進するためには、若者の心に響くメッセージ（情報）を届けることが重要であり、例えば、「なんとかやっていけるよ鳥取県」といったメッセージをどのようにして確実に届ける（受け取らせる）かを考えました。

＜課題解決に向けた具体的意見＞

- 鳥取に住むきっかけは人であり、人が人を呼びます。人と人とのかかわりをつなげる地域のキーマンに焦点をあて、我々と行政とが協働し、県の魅力や職場の魅力を若者に伝えることが重要です。
- 学生等に対する県内企業の紹介は様々な機会を捉えて実施されていますが、それらが「届いていない」という声を聞きます。現在、大学を中心に就職支援活動は行われていますが、京都女子大、京都産業大学などと結んでいる包括連携協定のように、もっと県主導で鳥取県出身者に対する就職支援（アプローチ）を実施することが重要です。
- 「とっとり移住相談カフェ」に参加している鳥取県への思い入れの深い学生を巻き込んで、首都圏大学生でタスクフォースを立ち上げ、例えば、タスクフォースメンバーによる学園祭等での鳥取県ブースの出展を首都圏大学で広げていくなどの取り組みを展開・継続することが重要です。
- 県外へ進学等した早い段階から、県内に就職している社会人との接点を持ち、就職に対する相談や意見交換等ができる体制を構築して、「鳥取での活躍を待っている」というメッセージを伝えることが重要です。
- 移住の最終目標は地域に溶け込む定住であり、若者が地域に溶け込んでいけるような橋渡しをしていく人の存在が必要不可欠です。若者を地域に溶け込ませるためのキーマン（コーディネーター）の育成と、コーディネーターが主体となった移住者と地域住民とのコミュニティの構築が重要です。
- 若者の移住に伴う不安感を共有でき、最も親身になって相談できるのは既に移住された若者だと考えます。ワンクッション置く存在として、各種イベントやSNSを活用した情報発信など既に移住された若者との連携により、鳥取県の魅力を発信していくことが重要です。

<メンバーの意見>

- 自分が大学や専門学校で磨いてきた能力を活かし、自分が活躍できるようなイメージを具体的に持ち、「なんとかやっていけそうだな、この鳥取」と思えるように促す情報発信が必要である。
- 鳥取に住んでいることを卑下しているところが言葉の端々に出てくるのは良くない。もっと、鳥取県の魅力を発信していく人を増やしていかなければならない
- 若い人は、「田舎暮らし」を「田舎くさい」と捉えてしまう。それを肯定的に、ここでしかできない人間的魅力に変えていくことが大事である。それは人と人とのつながりであり、「人が人を呼ぶ」ことにつながっていく。
- 県が作成するパンフレットやチラシは、内容が固いものが多いので、もっと敷居を低くして、鳥取県内の「人」の魅力を具体的にクローズアップし、人と人とのつながりで人の心を動かすようなものを作ってみてはどうか。
- そもそも鳥取県内にある企業のことを学生が知らないことが多く、あまり周知できていないのではないか。情報を手に入れるのではなく、もっと自然に情報が入るようなシステムが必要なのではないか。
- 幼少の頃から鳥取県の魅力、企業、それから鳥取県でしかできない生活を刷り込み、いずれは鳥取県に戻ってくるという思いを根底におくことが必要である。
- ライフスタイルが多面化しているので、そのニーズに合った情報発信が必要である。

2 鳥取で起業したい学生等のために

県内の学生等及び県外在住で鳥取に帰って（又は鳥取に移住して）起業したいと考えている学生等を対象に事業を立ち上げることの出来るスキルを身に付けさせるためのトライアル環境を整備し、伴走型支援により人材養成を図る具体的施策案を提言します。

〔提言の要旨〕

鳥取に帰りたい、あるいは鳥取に住み続けたいが働く場がないと思っている若者が大半だと思っていましたが、県出身の県外学生との意見交換において、在学中に働く場の拠点づくりにある程度の見通しが立てば、鳥取に戻って起業又は就職したいという意見がありました。

そこで、鳥取で仕事をしたいと考えている学生が、入学後早期（1・2年）に新規事業の立ち上げに至る過程を経験し一定のスキルを身につけておくとともに、県内産業界に触れることが、実際に県内の働く場を選択する段階での強みとなり、効果的な若者の定着促進につながると考え、次のような事業を提案します。

さらに、若者が新規事業の立ち上げに向けて県内企業の協力を得ながら成長していくその姿は、鳥取県がチャレンジできる県だとアピールできる絶好の機会だと考えます。

＜具体的施策案＞

首都圏在住の県出身学生の県内就職あるいは県内学生の鳥取県定着を目指して、県内で新規事業開発を目指す企業などと協働し、鳥取県で起業したい学生等に、自ら事業を立ち上げるスキルを身に付けさせるため、新規事業の立ち上げから事業実施までを実践・体験させる取り組みを展開する。

〔背景〕

- 進学で県外に出た学生等のうち鳥取県に帰って就職したいという人も多いが、希望する企業がない、そもそも鳥取県内の企業を知らないという声が多い。
- これまで、就職を前提としたインターンシップや、また、起業及び事業継承については、企業に対する融資等の支援のほか、県内の学生や女性を対象としたビジネスプランコンテストやシンポジウムなどの取組がなされてきているが、鳥取を活躍の場として起業にチャレンジしようとする学生・若者のニーズへの対応は十分ではない。

〔事業の流れ＜イメージ＞〕

- ・参加学生への説明会&ワークショップ
- ・3 Days Camp（スキルトレーニング）
- ・キックオフ（テーマ発表） 県内企業参加
- ・事業開発
- ・事業立ち上げ準備・実施

＜メンバーの意見＞

- 県内企業の経営者が、企業の魅力をもっと学生にアピールし、併せて県外から鳥取に来ている学生を鳥取に踏みとどまらせる努力をしていく必要がある。
- 起業するための手厚い県の支援制度があり、他県の人からは羨ましがられている程である。そのことをもっと県内外にPRすべきである。
- 自ら働く場を創って（起業して）移住してきた若者もいる。そういう経験を持った人との出会いの場も必要である。
- 起業してやっていけそうという見通しが立つのであれば、鳥取に戻るという選択肢ができる。
- 起業などにチャレンジしたいと思っている人はいる。他県では難しくても、鳥取県なら出来るという事をアピールしていく事も必要である。

3 変革に向けて

私たちがとっとり創生若者円卓会議で得た「鳥取県の現状を認識し、危機感を持って動いていくことが、小さくても活力ある鳥取県の未来へつながるのではないか」との結論から、まずは若者に向けて鳥取県の魅力を情報発信する必要があり、私たちとっとり創生若者円卓会議がその役割を担うことができれば、より効果的な情報発信ができるのではないかと考えました。

今住んでいるこの鳥取県が将来にわたって元気であり続けるため、私たちが自ら動き、鳥取県の魅力を情報発信することを宣言します。

〔宣言〕

今鳥取に住んでいる私たちが、鳥取県の現状を認識した上で将来への危機感を持ち、我々社会人が自ら動かなければ、鳥取県の将来像を変革することはできません。

＜課題解決に向けた具体的行動＞

○提言1及び2を実現するためにも、可能な限り我々も自ら実践していきます。

- ・若者に響くメッセージを伝えるために、県内大学の学生との意見交換に参加し県内企業の紹介や県内で働き生活する実践者として、情報を発信します。
- ・この円卓会議をきっかけにSNSによるグループを結成し、随時情報を取り入れ、併せて情報を拡散する仕組みをつくります。
- ・県の若手タスクフォースが企画するフェイスブックグループ（鳥取県の移住・定住を考える若者委員会）に自ら積極的に参加し、知人・友人へも参加を促します。
- ・学生メンバーが中心となって、県外に在住する学生と県内の学生とのネットワークを構築し、県外の学生が必要とする県内情報を発信します。
- ・社会人メンバーが中心となって、学生等の伴走型起業支援事業に自らが所属する企業への働きかけ又は参加、若しくは同業種の企業へ情報提供等を行って、事業への参加を促します。

＜メンバーの意見＞

- 社会人である我々が、鳥取県の現状を認識し、危機感を持って動かなければ変革ということはできない。

- 我々のおかれている問題にほとんど気づいていなかった。知る機会をもっと作っていかねばならない。今回我々はそれに気づいたのだから、その問題を何とかしていろんな人に、友達でいいのでアピールしていかないとけない。
- 企業を営んでいる経営者として、こういう企業に入りたいところを鳥取県の企業がきちんと学生にアピールしていくという事、併せてせつかく県外から集まっている学生を引き留めるという事を努力していく必要がある。
- 転職経験者と学生とのコミュニケーションの場を設けてはどうか。
- 就活応援サポーターをして気が付いた。鳥取県が首都圏に出ている学生を呼び込むことに対して、東京であれば新橋で開催されることが多いが、足を運ぶにはハードルが高いように思う。発信する入口を学生が多く集まる場所にセッティングすることで大分変わってくると思う。
- 行政の発信には限界がある。インターネットなどで情報を拡散するなどして鳥取のイメージアップを図り、移住や定住に結びつけていく。

鳥取県中部地震を受けて

この度の地震では、被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

地震による直接被害や風評被害を受けるなど地震の影響は大きなものですが、日頃から強く結ばれている地域の絆や、多くのボランティアの方々の力で住民が支え合い、復興へ向かおうとしています。

この地震をふるさと鳥取県を考える機会だと考え、この地震を逆手に鳥取県の人々の温かさや絆の深さを全国に発信することが重要であると考え提言します。

〔提言の要旨〕

- 今回の地震で大きな被害を受けたものの、死者が出なかったことや被災者への対応（支援）の早さなどは鳥取県の強みであり、「対応能力の高い鳥取県」「安心して暮らせる鳥取県」を全国に発信することが重要です。
- 日ごろから地域の間関係が形成されているので、いざというときに地域の住民同士が声を掛け合ったり助け合ったりすることができます。人の心に残る感動的なエピソードを収集しフェイスブックなどで広く発信することは、鳥取の人の温かさなど県内外に知ってもらう機会とすべきです。
- 今回の地震で県外の若者のボランティアを受け入れることは、鳥取の良さを知り、移住・定住をしていただく良いきっかけになります。
- 震災で人と人とのつながりを実感するなど、改めて地元のことをよく考える機会となっています。この経験が若者の心に刻まれることで、地元に残るという意識付けにもつながります。

<メンバーの意見>

- 店舗に被害はあったが、こういう時だからこそ、何とか皆さんの力になりたいと思い店を開け続けた。
- 震災で断水もあったが、三朝やはわい、東郷、関金の温泉が無料開放されるなど、鳥取県に住んでいて良かったと実感した。
- 人と人との心の距離が近いことや人の絆の強さなど、古き良き日本が鳥取には残っていることを今回の地震で再認識できた。
- 阪神大震災と今回の地震も被災したが、集落の方々が自分たちで助け合い、災害に自然体で立ち向かう姿に感動した。土に触れ共同作業をしていると怖さが抜けていく。自然の生きる力を実感した。
- 県外在住の県出身者で、今回の地震により地元に戻りたいという気持ちが出てくる人がいると思う。
- 観光については、地震の被害が少なかった東部・西部にも影響が出ている。当面、東部・西部は大丈夫という情報発信をし、中部が復興してきたら東部・西部が中部の支援を行うことを考えていくべき。